

# 奈良・人と自然の会

## 秋の観察会に参加して



出口多恵子

9月19日（金）晴れ  
9時30分 もう気温は35℃近くになっている。  
暑いけど一日がんばろう、  
歩き始めて2、3分もたたないうちにもう学習が始まった。  
そうだ今日は秋の草花、収穫近い里山風景を愛でながら歴史と文化にふれる学習会なんだ、  
ピンクの可愛い花をつけたアレチヌスビトハギ、すぐ服やパンツに種がつくヌスビトハ  
ギの違いから始まり、セイタカアワダチソウ、花をつけたヨモギ、ゆらゆら風に揺れている  
“風草”等々 歩いている時、すぐ横にあつて、時にはフンという感じで目にもとめない  
草花にも名前がある、こんな当たり前のことが私には不思議で、野に咲く草花や自然を  
熱心に勉強している講座生の方や、それを指導して下さっている河野先生に対して後にな  
って後ろめたいものを感じました。  
それにしても一日中、歩いては立ち止まり樹木や花の名前だけではなく、いろいろな事を  
分りやすく教えて下さった河野先生、  
先生！！先生の頭の中にはどれだけの植物がインプットされてるのですか？  
百、千、万 もっともっと・・・先生は天才です。  
“野に咲く花の名前も知らない、だけど野に咲く花は好き”  
会員でもないのに仲間に入れていただき、楽しい一日を過ごしました、  
“奈良、人と自然の会”の皆様ありがとう、  
また、資料作りから下見、多分お天気の心配まで、あらゆる面でお世話していただいた  
スタッフの方々、ありがとうございました。

## 生駒棚田日記

大寺 道代

- 6月22日(日) 見学会 ・現地の人たちと会って、7月より草刈を手伝うことを約束する。
- 7月 6日(日) 初作業 ・竹林他2面の草刈。石垣と神田川が顔を出す。ウバユリ、フキを残す。(参加者14名)
- 7月14日(月) 中止 ・前夜の大雨の為中止とする。(参加予定者8名)
- 7月21日(月) 畑の草ぬき ・地元が共同で植えたイモ畑の草をぬく。午前中に終了する。午後は竹林付近は水が多く作業無理。神田川の流れにトンボが飛んでいる。(参加者13名)
- 7月27日(日) 草刈 ・ソバ畑予定地と棚田1枚の草刈、午前中で終了する。午後道路に近い一面の草を刈る。(参加者6名)
- 8月 3日(日) 枯れ草焼き ・消防署に届出の上、これまでに刈り取った枯れ草や枯れ木を燃やす。高い気温がますます上昇し、熱中症寸前。山のような枯れ木も一握の灰になる。神田川の水を汲み上げ、バケツリレーで消火を完全にする。ずいぶんすっきりする。(参加者9名)
- 8月11日(月) 竹林整備 ・余分な竹を切り、景観を整える。石垣もすっきり見える。残っていた枯葉と竹を燃やす。(参加者14名)
- 8月24日(日) ソバの種まき ・地元の棚田を守る会の人たちと共同作業でソバの種まき。地元の方々の見事な鎌さばきで整えられた畝に種をまく。余った時間は豆畑の草ぬき。昼食後地元の代表と話し合い、ボランティアとして棚田の復活を助けると言う意思を伝え了解を得る。来年は休んでいる二枚の田んぼを水田として復活させることを前提に、草刈の場所を確認する。(参加者9名)
- 9月1日(月) 水田予定地草刈 ・水田復活の予定地のセイタカアワダチソウをかる。道端の草を刈ると神田川の流れが顔を出す。トンボの群れが行き来する。濃紅色ゲンノショウコが美しい。地元相川さんにいただいたヤマトネギの苗を植える。(参加者15名)
- 9月7日(日) 水田予定地草刈 ・背丈より高いセイタカアワダチソウ。大石さんの草刈機で道を開け鎌で刈り進んでいく。広いので1/3を残し終了。奥のほうに神田川の清流が現れる。自然のままのピオトープがすばらしい。(参加者10名)
- 9月14日(日) 水田予定地草刈 ・刈り残しの草刈の完了。ワケギを植える。(参加者9名)

9月21日(日) 稲刈りの体験 ・地元をお願いして稲刈りの体験をする。講座生に呼びかけ、3畝120坪を手で刈り、はさ掛けを午前中で終了させる。最近では珍しい風景に一同感激する。昼食は豚汁を炊いて歓待する。(参加者21名講座生5名)

《感想》夏の一番暑い日中(10:00~13:00)の作業は汗だくの肉体労働にもかかわらず、毎週参加者が6名~15名よく頑張ったと思います。楽しく充実感のある作業だったと思います。200枚の棚田の2/3は休耕田。少人数では追いつきません。大勢の参加がこれからの課題です。また、作業のほかに、現地と地図の照合、作業場所の確認、作業状況の写真撮影等を平行して行っています。



## 奈良奥山案内報告

樋口 善雄

NPO シニア自然大学研究科「総合科」より案内依頼があり、下記要点で巡ってきた。

- ① 日時 8月22日(金)
- ② 案内者 樋口 善雄・甲斐野 幸一・阿部 和生(いずれも当会会員)
- ③ コース 春日大社前駐車場(集合)→若宮境内の大楠(奈良県下一)→若宮前イチイガシ(奈良市文化財)→東海自然歩道・寝仏→夕日・朝日観音→首切地蔵・巨樹測定実習→振れ杉観察→若草山頂上→北側遊歩道下山・極相林観察→夕日亭前・解散
- ④ 準備資料
  - 1 「東海自然歩道マップ」(第2回分円成寺・・・奈良)
  - 2 「奈良公園観察マップ」(長野さん作成の野鳥観察)
  - 3 新聞記事(巨樹調査・巨樹保護)
  - 4 「巨樹マップ」(世界文化遺産指定域関係)
  - 5 「東大寺3月堂の造営変遷史
- ⑤ 後記
  - 今年、山ヒルの出没が少ないと見られ、わずかに1匹が見られた程度である。
  - 道中はムクロジ、大杉、つる正木、リンボク、椎、紅葉、古木の桜、カラスザンショ、イヌシデ等の珍樹、巨木多し。また、極相林とも見られるブナ科の樹木林もあり、植生としても、自然観察には最適な場と見られる。
  - 途中で振れ杉観察の為山中に入った。(入山には許可が必要である。)
  - 首切り地蔵前の巨樹測定を目測で行い、実測値に近かった5名に粗品を渡した。
  - 古都奈良の案内は、歴史に基づき文化と三笠の山に発する自然とを併せ説明した方が理解し易いと確認した。

地球上には多くの生物が生存していると考えられるが、何故にかくも形や機能が異なる数多くの生物が進化の過程で出現してきたのだろうか。各々の生物種が特有の形や機能を持っているのは、各生物種が各々の生育環境に最も適応に進化した結果と考えられ、それは、「持ちつ持たれつの関係」、あるいは「食うものと食われるものとの関係」など、とても複雑に絡み合う網目構造を作り、ひとつの安定した生態系を構築している。所で農業はこの機構とどうつき合ってきたか。近代農法では単作化、化学肥料、農薬、強度な耕起作業などで生物多様性を攪乱してきた。一方旧来の伝統農法では、開墾や耕耘で一時的に生物多様性を破壊し攪乱はするが、再構築して逆にうまく活用してきた。最近盛んに報じられる有機農法はまさに在来品種の伝承や種の保存、絶滅危惧種の保存地としての機能など、高度の役割を担う可能性を持っている。それはとりもなおさず、土と土壤微生物に目を向けて土を育てているからである。

生物は水素、炭素、窒素、酸素など軽い元素からなり、決して、特別の元素から構成されているのではない。そして細菌から人にいたるまで、全ての生き物はタンパク質と核酸という生体高分子から構成され、タンパク質は生体内での化学反応の触媒である酵素の本体であり、タンパク質なくして必要な物質もエネルギーも作れず、また核酸は遺伝情報を担い解読する物質であり、核酸なくして子孫も作れない。ところで、有機物分解に関与する微生物は、自身が生きるため増殖するために、有機物を餌としてエネルギーを獲得している。その時、色々の養分を一定の比率で摂取することが必要である。特に体の骨格を作る炭素と窒素は炭素率 (C/N比) といって重要で、カビによる有機物分解は、炭素率が20ぐらいといわれている。オガクズや稲ワラは、炭素率が高く窒素が圧倒的に不足し、周囲の無機態窒素を取り込み、自分の体を作る。その結果、畑の土壤中で作物は一時的な窒素不足状態におちいり、葉色の黄化や生育の抑制が起こる。そのため、肥培管理では元肥もさることながら、作物の生育状態をよく観察してタイムリーに、化学肥料や堆肥、厩肥、あるいは即効性のあるぼかし肥を施すのである。

所で、化学肥料は科学的には塩類、すなわち酸と塩基の中和により作られたものであって、施用するとそれらが水に溶けて、作物に吸収されるが、多いと酸性イオンが多く残り土壤の酸性化は増す。その結果、土は硬く締ってくるので透水性、通気性が悪くなり、酸素供給も少なくなると、根の栄養吸収能の低下をきたし、腐生細菌などが繁殖し易くなるといわれている。また連作障害、とりわけ窒素質肥料の過剰施用で最も端的に現れる集約的農法、つまり単一作物栽培では土壤病害虫が土に生き残り、土を疲弊させてしまうことである。その点、腐植や堆肥はより豊かな土壤環境を整えるのであるが。

一方、農業は地球規模で気象変動にも大いに関わっている。化石燃料の燃焼によって大気中に放出される二酸化炭素は、地表の温暖化を引き起こす最大の温室効果ガスだといわれている。また反芻する牛から出るメタンや、窒素成分に由来する一酸化二窒素もその影響が指摘され、特に、窒素化学肥料の多量使用は、施肥窒素の1%前後が一酸化二窒素とし

て土から大気に放出され、オゾン層破壊の加害者の一員であるといわれている。さらに、多施により環境の富栄養化と地下水の汚染である。水田では一般に窒素分を含めた水を浄化する能力を持つが、畑ではそうはいかない。未処理の生活雑排水と同様に、土壌の吸着能力を超えた部分や大雨などの気象条件によって、多くの部分が河川や湖沼の栄養化を促進し、水中生物に壊滅的打撃を与え、加えて地下水の硝酸濃度を高め、人体や家畜への被害をもたらす。農業はクリーンな産業とばかりは言っておれない側面をも持つのである。

農業の主な目的は、生産物を効率的に作り出すことに科学技術は大いに貢献した。所が大量の生産は物質の豊かさをもたらした反面、環境の悪化を持続的に引き起こし、悪化した環境の修復コストが生産コストに加わることに我々は気づきだした。つまり地球環境にやさしい循環型農業や有機農業が論じられる背景はここにある。経済封鎖下、国ぐるみで有機農業に取り組み、見事に成功しているキューバや、ヨーロッパ特にドイツの如く、有機農業実施面積を現在の2.6%から2010年には20%にする目標をたて、集約的農業の時代は終わったと宣言している。ひるがえってわが国は、1950年代には農業は活気にみなぎっていた。当時の穀物自給率は82%、カロリーベースに換算しても79%もあった。現在の食料自給率はなんとカロリーベースで40%にも満たず輸入大国と化している。又食料の生産から消費者に届くまでにどれだけの輸送エネルギーが使われているか。量と輸送距離を掛け合わせて算出する「フードマイレージ」が最近さかんに論じられる。勿論その値は世界一であり、その原因は化石燃料の安さと、経済的合理性の名のもとに、度をこしたグローバルイズムに起因していると思えてならないが、自分の食べ物は自国で作るのがごく自然なのに。地球の反対側からトマト（言い換えると水）を輸入する。誰が考えても首を傾げざるをえないと思うが、「身土不二」や「地産地消」という言葉は、人間が歩く身近な三里四方、四里四方で育ったものを食べ生活するのが良いとする考え方で、「体と土」は一体であり、体のバイオリズムに合ったもの、つまり自分の体が求めているものが、その地の旬の食材である。このように環境とは切っても切れない関係にあると説いている。また旬の野菜や果物は地球環境にも優しいといわれるのは、野菜自身がその地で一番たくましく、かつ生育しやすい時期であり、慣行農法に比べて有機農法は化学肥料や農薬にほとんど世話にならず、かつ温度管理のために余分なエネルギーを使って環境に負荷を与える事も無い。食の安全・安心は健康に直結するものであり、大地の恵をいっぱい含み、酵素や核酸、ビタミン、ミネラルに満ちた「旬」はおいしさの原点か、と「土さんやミミズさん、微生物さんはたはこと」を述べていた。

#### 参考図書

ワールドウォッチ研究所：地球白書。家の光協会

西村和雄：ぐうたら農法のすすめ。富士通経営研修所

吉田太郎：有機農業が国を変えた。築地書館

福岡正信：自然農法わら1本の革命。柏樹社



## 重陽の節供と菊

寺田正博

重陽は菊の節供といわれる。菊は重陽の季節の花である。「重陽」というのは、「重」は重なる意であり、「陽」は本来「太陽」の意であって「陰」に対する。数でいうと奇数をあらわす。重陽は陽数の極である九が重なる九月九日（陰曆）である。

重陽と菊との結びつきは、邪気をはらい、寿命を延べるとい中国の「菊酒」に由来するところが大きい。中国の生活文化の影響もある沖縄では、陰曆九月九日に「菊酒」といって、酒盃に菊の葉を浸し、祖先の霊前に供える風習がのこる。

重陽節そのものは、中国から日本にもたらされたもので、「日本書紀」に天武天皇十四年（685）九月九日「天皇、旧宮の安殿の庭に宴す」とあります。平安時代には菊は、「翁草」「千代見草」「齡草」などといわれ、宮中では重陽の節供に観菊の酒宴が催された。酒に菊の花を浸して飲むと長生きができるといわれ、また「菊のきせ綿」といって、前の晩に菊にかぶせて露にしめらせた綿で身体を拭くと長寿を保つといわれた。

菊酒は日本では、菊の花を浸して飲む酒と思われているが、中国では実際に菊花を用いて酒を造った。四世紀の「西京雜記」には「九月九日…菊花酒を飲めば人をして長寿せしむ」とあり、菊酒は「菊花ひらく時、並びに茎、葉を採り、黍、米と雑えて之れを醸す。来年九月九日に至り、始めて熟し就いて飲む」と解説する。

菊酒を飲むと長寿を保つと信じられたのは、昔、河南省の南陽に甘谷があり、その山上にたくさん菊が生えていて、谷の途中の三十余りの家は山上より流れてくる谷水を飲むため、上寿は百二、三十歳、中寿は百余歳、下寿は七、八十歳を保ったという伝説によるものといわれている。（芸文類集） 菊と長寿に関する故事は中国には数多く有るようだ。

キクは中国が原産。キクが日本に渡来したのは奈良時代といわれている。

「万葉集」には菊は全く歌われていません。菊の実在を示すのは桓武天皇が延暦十六年（797）宮中の曲水の宴で詠んだ「このごろの時雨の雨に菊の花しりぞしぬべきあたらその香を」（類集国史）のようである。

キク科の植物は顕花植物のなかで最も大きな植物群です。約1000属に分類された約23000種が広く世界に分布しています。このうち日本には約60～70属、370種程があり、この種数は日本産顕花植物の約1割です。キクは広義には約250種あるキク属の総称で、狭義にはそのうちおもに花を鑑賞する東アジア原産の栽培菊をさしています。この栽培キクの基本種は、チョウセンノギクとシマカンギクが、中国中部で、唐時代かそれより少し前に交雑してできた雑種といわれています。

余談ですが、キクを国花と考える人も少なくない。確かにパスポートのマークはキクの紋である。日本の國章にあたろう。これは皇室の菊の紋章とのつながりが深い。菊花紋は明治二（1869）年に太政官布告で正式に皇室の紋とされたものである。

参考引用文献「歳時の博物誌」「植物と行事」「節供の古典」「年中行事を科学する」



# 行事案内

## 生駒山棚田クラブ (仮称) (主催 シニア自然大学)

9月会報にてご紹介致しましたが、着々と作業が進捗しており、見事な景観が現出しつつあります。稲刈り、種蒔きも始まり、小さな夢が開きつつあります。農事に未経験な方も、一度チャレンジしては如何でしょうか。

記

- |          |  |
|----------|--|
| 1 10月作業日 | 10月 6日(月)、12日(日) 19日(日)<br>26日(日)の四日間です。 |
| 2 集合場所   | 近鉄生駒線 南生駒駅 AM 9:30分                      |
| 3 準備     | 弁当持参 長靴 必携 (作業農具は現地に有り)                  |
| 4 連絡先    | 大寺 道代 TEL・FAX<br>阿部 和生 ”                 |



NATURE NARA

### ネイチャーなら 奈良・人と自然の会 【10月度例会】生駒山越え

涼感溢れる生駒山麓を歩きます。秋の草花、収穫近い里山風景を愛でながら、歴史と文化にも触れてみたいと思います。

- |      |  |
|------|--|
| 1 日時 | 10月8日(水) 10:00~4:00                                  |
| 2 場所 | 生駒山 越え (約8km)  |
| 3 集合 | 近鉄奈良線 生駒駅中央改札口 (階上)                                  |
| 4 行程 | 生駒駅(ケーブル) 宝山寺駅~西畑町(シニア棚田更生作業地) ~暗峠~ 生駒駅<br>(解散 4:00) |
| 5 準備 | 弁当 水筒 観察用具 他   |
| 連絡先  | 川井秀夫   |

## 黒髪山工作教室 (打ち合わせ会)

【11月9日(日)のイベントの準備会】

- 1 日時 10月18日(土) AM10:00~12:00 (午前中)
  - 2 場所 黒髪山キャンプフィールド
  - 3 内容 音の出るものを中心にやさしい物を作る  
(イタドリ、小竹、ドングリ等の笛、セミ丸クン、小鳥の木クン等)
- ★ ナイフや鋸は準備してありますが各自の愛用品があればご持参ください。
- 4 連絡先 樋口 善雄 TEL・FAX



ネイチャーなら

奈良・人と自然の会

### 第1回...東海自然歩道・自然観察会

第一回シリーズは7月に終了し、第二回シリーズは東海自然歩道を東から西に向い、「曾爾高原」を基点に全長約129kmの大和青垣を巡る一本の道として、観察時期を変えてトレース致します。初回はススキの大海原が最も美しい晩秋の曾爾高原で自然観察会を行います。気楽にご参加ください。

〈コース名〉 ① 曾爾高原 [8km]  
 〈日時〉 10月30日(木) 9時40分 集合  
 〈集合場所〉 近鉄名張駅：西口改札口 (三重交通バス・奥津方面)

\* 西大寺〔橿原神宮前行急行〕8:20発…八木8:42乗換

近鉄ナンバ〔奈良行快急〕8:20発…鶴橋8:26乗換〔宇治山田行快急〕8:27発…八木8:57…名張9:24

〈行程〉 近鉄名張…中太郎生～亀山峠～国立曾爾自然の家～太良路…近鉄名張  
 〈担当〉 西谷範子 寺田正博 弓場厚次

## 03黒髪山キャンプフィールド自然塾(主催 奈良市 黒髪山C.F運営協議会)

「野外コンサートと手作り工作」

当会会員 境 寛氏のご斡旋で、手作り工作(木工クラフト部門)に特別参加致します。興味のある方は是非ご参加下さい。

記

- 1 日時 11月9日(日) AM 9:30~2:00
  - 2 場所 黒髪山 キャンプフィールド  
黒髪奈保町バス停下車 西へ10分
- ☆ 参加者には集合場所・時間等 ご連絡致します。
- 3 催し 木工クラフト(どんぐり・松かさ・もっくん)
  - 4 連絡先 樋口 善雄 TEL・FAX





ネイチャーなら  
奈良・人と自然の会

〔11月度例会〕 秋色のみたらい溪谷

紅葉がいちばん映える11月のみたらい溪谷。大峰山系から流れる山上川が造り上げた奇岩・巨岩、清流と滝が織りなす溪谷の秋を楽しみに行きませんか。気楽にご参加ください。

〈日時〉 : 11月10日(月)  
〈集合〉 : 近鉄 下市口駅 改札口 午前9時10分  
〈交通〉 :

- ・ 西大寺〔橿原神宮前行急行〕7:56…八木8:20…橿原神宮前8:26 乗換
- ・ 近鉄阿部野橋〔吉野行急行〕7:50…橿原神宮前8:31…下市口9:06 着

\* 近鉄電車の乗車駅から『天の川探勝きっぷ』を利用されますと15%OFFになります。

〈コース〉 :  
天川川合……白倉出合……観音峰分岐……竜泉寺……洞川温泉

〈担当〉 : 弓場厚次



NATURE NARA

ネイチャーなら  
奈良・人と自然の会

第2回 東海自然歩道・自然観察会

前回の「奥香落」は6月の始め、ツルアジサイやコアジサイの開花期で、済浄坊溪谷のカエデの仲間達も美しい新緑の日陰を落としておりました。今回は紅葉が一段と映える済浄坊溪谷から当シリーズでは最高所のクマタワを経て室生寺に向います。

〈コース名〉 ② 奥香落 (おくこうち)  
〈日時〉 11月18日(火) 8時50分 集合 (時間厳守)  
〈集合場所〉 近鉄名張駅: 西口改札口 (三重交通バス・曾爾方面)

\* 西大寺〔橿原神宮前行各停〕7:37…八木8:07乗換

近鉄ナンバ〔奈良行快急〕7:31発…鶴橋7:34乗換〔松阪行区快〕7:41発…八木8:16…名張8:47

〈行程〉 近鉄名張…太良路～済浄坊溪谷～クマタワ～龍穴神社～室生寺…室生口大野  
〈担当〉

勝田 均

寺田正博

弓場厚次



## 2003年9月度定例幹事会報告

1. 日時：2003. 9. 5 (金) 18:00~21:00
2. 場所：奈良県分代会館会議室
3. 出席者：川井、安部、大石、大寺、小山、樋口、弓場、豊島
4. 司会：大寺 書記：豊島
5. 議事

### (1) 報告事項

- ① 会員動向 89名(8月末、会費未納3名) 会計報告 106,565円(8月末残高)
- ② 8月度例会 和佐又山自然観察会(22名)  
登山の装備、服装、雨天時の対策、心得などの学習会開催が必要  
岩本氏(ヒュッテ管理人)のお話、夕食交流がすすんだ
- ③ 生駒市西畑町棚田再生作業実施報告 (6月以降延べ93名参加)  
棚田の景観を取り戻しつつある  
9/1 生駒市を訪問、市会議員と懇談  
生駒市自然保護部の事業として棚田ルネッサンス(棚田の再生)に取り組みたい意向  
ネイチャーならとしてもシニア自然大学、生駒市、地元(棚田を守る会)などと協力して引き続き取り組みたい
- ④ 研究センター総合そら組 春日山原始林 受託ガイド実施 8/22  
講師 樋口氏、安部氏、甲斐野氏  
春日原始林の巨樹、巨木探索 巨樹の測定の仕方実体験など

### (2) 承認事項

- ① 生駒市西畑町棚田再生作業実施責任者について  
責任者 阿部氏 副責任者 大石氏 事務局 大寺さん

### (3) 討論事項

- ① 9~11月度行事予定の確認  
9月19日 明日香の彼岸花 講師 河野猪太夫氏 担当 寺田  
10月 8日 生駒山麓自然観察ハイク 担当 大寺 川井  
10月30日 東海自然歩道・自然観察会 曾爾高原 担当 西谷 寺田 弓場  
11月10日 秋色のみたらい溪谷 担当 弓場
- ② 機関誌編集について(自由討議)  
コラム、俳句、イラストなど楽しい紙面づくりを  
編集後記をエッセイ的なものにしては  
会員からの投稿を積極的に呼びかける
- ③ 小部会活動について  
会員の興味のある内容で小部会を設置していくことを検討する  
(棚田、東海自然歩道、森林ボランティア、社叢林、クラフト)など
- ④ その他  
東海自然歩道の最終的なマップのまとめ方を別途検討する  
(一般の人でも活用できる、季節ごと、イラスト中心)など  
東海自然歩道参加者から参加費(資料代など)として200円徴収する  
(次回案内から記載する)

### 編集後記

自然に親しむには絶好の季節になりました。今回は行事も多くなっております。  
いろんな体験や身近な現象の記事もお待ちしてます。10月20日までに下記へ。

編集担当 : 勝田 均  
Tel & Fax

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫